

2015年

1月

中国四国農政局
高松地域センター

News Letter

香川本鷹

縁起の良いうどんを食べて自給率向上～年明けうどん～

明けましておめでとうございます。

讃岐には昔から、ハレの日にはその家の主(あるじ)がうどんを打って来客に振る舞うという習慣があったそうです。小麦粉をこね、広く伸ばし長いうどんを打つ。それが広く長くその家の繁栄を表すような縁起物になったといえます(農政局HP掲載「讃岐を食すvol.2」から)。



紅いあん餅入りのさめきの年明けうどん(香川県)

そんな讃岐で昨年12月、日本各地のご当地うどんを集めた「全国年明けうどん大会2014inさめき」が開催され、北海道から沖縄まで、16道府県から46種類のうどんが高松市のサンメッセに集まりました。

年明けうどんは、白いうどんにご当地の赤い食材をあしらい、紅白の縁起物として年始を祝おうというものです。香川県からは、あん餅雑煮にちなんだ紅いあん餅入りのうどんなどが、また、県外から参加したブースでも各地の紅をあしらった年明けうどんやご当地うどんが披露されました。

ところで、小麦の自給率は、ここ数年10%から12%程度で推移していますが、うどんなどで使用される日本麺用の小麦では国産がおよそ70%を占めています。古来からのうどんは食料自給率の優等生ともいえます。

うどん県こと当香川県では、平成12年にうどん専用品種の「さめきの夢」が県オリジナル品種としてデビューし、昨年はおよそ1,500ha作付けされ4,600tの生産がありました。県内各地の製麺所やうどん店で、この小麦を使ったうどんが作られています。

また、全国的にも、うどん用はもとより、パンや中華麺に適した国産小麦の品種開発や、小麦の自給率を上げる地場産小麦を使った商品開発など、地産地消や地域農業の推進につながる取組が行われています。うどん、パン、中華麺、パスタなど、国産小麦を使った製品を是非ご賞味ください。



名古屋エビふりゃ～
きしめん(愛知県)



年明けうどん(カニ天入り)
北海道純雪うどん



年明け稲庭うどん(秋田県)

平成27年2月1日現在で

2015年農林業センサスを実施します。



農林業センサスは、1950年以降5年ごとに実施されており、2015年農林業センサスは14回目の実施となります。

この調査は、我が国の農林業の生産構造や就業構造を明らかにするとともに、農山村地域における実態を総合的に把握することにより、農林行政の必要な基礎資料を得る重要な統計調査です。

農林家の皆様のご理解とご協力をお願いします。

- 農林業経営体調査（平成26年12月中旬～平成27年2月末）
調査員が各農家を訪問し調査を行います。
- 農山村地域調査（平成27年4～6月末）
集落のインフラなどを調査します。

新たな「食料・農業・農村基本計画」の検討における
国民の皆様のご意見・ご要望を募集しています。

農林水産省は、新たな「食料・農業・農村基本計画」の検討にあたり、食料・農業・農村政策審議会企画部会での施策の方向性や食料自給率等の目標・展望の考え方などに関する議論を踏まえたご意見・ご要望を募集します。

募集期間は平成26年12月26日から平成27年1月19日（月）となっています。新たな食料・農業・農村基本計画全般、食料自給率・自給力、食の安全など、ご意見・ご要望を200字程度にとりまとめた上で、郵送またはインターネット等を通じてご提出ください。

詳しくは農林水産省hpからご案内しています。

(<http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo02/141219.html>)

また、中国四国農政局（企画調整室食料・農業・農村基本計画推進担当、<tel:086-224-9400>）にも窓口を開設していますのでお問い合わせください。



今月の消費者コーナーは、
「第2回食と農林漁業の
食育活動優良事例」を紹介しています！

農林水産業への理解や食への感謝の念を醸成する食育活動を持続的かつ効果的に実施し、優れた実績を上げた農林漁業関係者や食品等事業者の取り組みをパネルで紹介しています。

編集：中国四国農政局 高松地域センター

〒760-0018 高松市天神前 3-5

TEL (087)831-8153 (内線326) FAX(087)831-8156 <農政局HP><http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆各種メールマガジンを配信中（登録はこちらから） <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>